入選

「不思ぎなできごと」

妙円寺小学校　四年　新名主　愛希

「ねえ。私たちって何でふた子なの。どうしてふた子って分かったの。」

夏休みに入ってすぐ、私はお母さんに聞きました。ずっとぎ問だったからです。お母さんはびっくりした顔をしましたが、不思ぎなできごとを話してくれました。

「じいちゃんのお通夜にね、夢にじいちゃんが出てきたの。そして、『しっかり育ててていけよ。』と言って、やさしく笑って消えていったのよ。」

私はひいじいちゃんをぶつだんにかざってある写真でしかみたことがありません。そのことをお母さんに言うと、

「そうだよね。お兄ちゃんがまだ一才の時だったからね。」

と、一冊のアルバムを持ってきました。そこには、赤ちゃんのころのお兄ちゃんをだっこした、とびっきりの笑顔のひいじいちゃんがいました。ひいじいちゃんは、カメラではなくてひざにだいたお兄ちゃんを見ています。とてもやさしい顔です。

「じいちゃん、うれしそうだね。」

と私が言うと、お母さんは、

「それはもう、よろこんでね。よくお兄ちゃんを連れて遊びに行ったよ。行くたびにだっこして、いっぱい話しかけてくれてね。ひ孫がだけて幸せだってよく言っていたよ。」

と教えてくれました。

「それで、ふた子の話とじいちゃん、何の関係があるの。」

と聞くと、お母さんが、

「不思ぎよね。お母さんも信じられなかった。お通夜の夜の夢でじいちゃんが言ってたこと、しっかり育ててって。お兄ちゃんのことかなと思っていたら、一週間くらい経って、お腹にあなたたちがいることが分かったの。夢

でじいちゃんが教えてくれたのはこのことだったのか、と分かったの。それにね、お腹の中に二人も赤ちゃんがいるって分かったのは、お母さんの誕生日の日だったのよ。じいちゃんからのすごいプレゼントだと思わない。」

私はお母さんの話を聞いていて、鳥はだが立ちました。亡くなったじいちゃんが教えてくれた私たちの命。そしてじいちゃんからお母さんへの誕生日プレゼント。私たちが生まれた日は、じいちゃんの娘である、私たちのばあばが生まれた日と同じです。

人がこの世に生まれること、それがこんなにもぐう然が重なり、不思ぎなことが連さしているなんておどろきでした。私が生まれるまでに、たくさんの人の思いがお腹の中の私にとどいて、元気に生まれることができたんだと思います。

「しっかり育てていけよ。」

お母さんが感じているこの言葉の重みを私も受けつぎ、人にやさしくできて、人の役に立つことのできる人になれるように、しっかりと毎日を生きていきたいです。